浜村役場は西成学区、津守村役場は保健出張所に転用された。また初代西成区長として野々田為吉が就任し、初の市会議員としては六月二日、四日の開票結果、一級中村寅吉、岩間繁吉、二級八代徳太郎、吉川吉郎兵衛の四氏が当選した。

西成学区の設置

つぎに編入とともに西成学区が設置されたが、当時周辺部の編入条件に学区廃止があげられ早晩実現すべきものとしながら、これには府税、家屋税の改正を要するため昭和二年三月末日を限って学区廃止を実現せしめることとした。そのため二カ年間の学区であったが、本学区によって区内の小学校並びに幼稚園、実業補習学校の設備改善が図られたことは、まことにその意義大であり、その頃御真影奉安庫が建設せられるとともに、村制時代腐朽した校舎の増改築、あるいは二部教授の全廃などに努められた。

学区別教育事業調（大正一三年末現在）

学区	尋常小学校 校数	尋常小学校 児童数	高等小学校 校数	高等小学校 児童数	実業補習学校・裁縫学校 校数	実業補習学校・裁縫学校 生徒数	幼稚園 園数	幼稚園 幼児数
西成区	一一	一一、九一三	五	一、一二二	二	九七	一	一七四

第七章　昭和時代

一　日華事変まで

相つぐ市施設の設置

かくて待望の市域編入が実現し、大阪市部となってからぞくぞく市の新な施設も設けられ、人口増加に対応して学校もつぎつぎ増設された。すなわちまず大正一四年九月には花園町のもと萩之茶屋職業紹介所跡に、市設今宮公益質舗、一五年五月橘通五丁目に市立今宮産院、昭和二年四月千本通三丁目に西成区役所の新築落成、四年二月東田町に市立今宮保護所並びに東入船町に今宮改良住宅、同九月粉浜公設市場、同一二月玉出市民館、八年三月桜通八丁目に西成託児所など市社会保健施設が相ついで創設された。

小学校の増設

また学校についても大正一四年一〇月津守第三（現北津守校）、昭和二年四月今宮第六（現松之宮校）、同六月徳風勤労学校、五年五月今宮第七（のちの開校）、同五月東粉浜などの各尋常小学校が新設された。大正一四年国勢調査人口一三七、六三二が昭和五年には一六七、八七九、昭和一〇年二〇三、五三〇と驚異的な増加振りを示していることから見ても、従来の農地が宅地化して行く様子を推測することができる。

交通機関の発達

こうした発展は一にまた交通が至便となった点に因しており、まず南海では大正一五年南海本線と

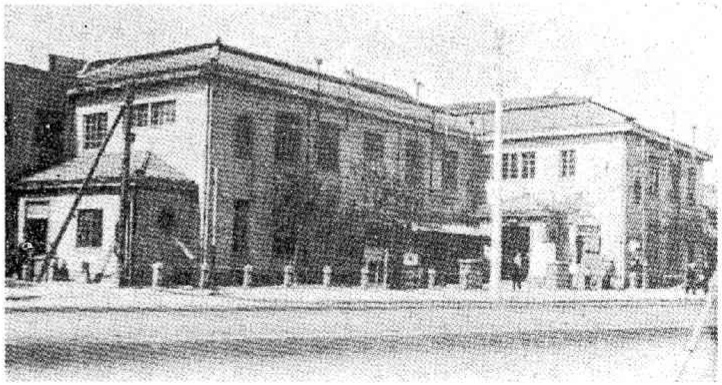
阪堺電鉄の開通

高野線とを岸之里駅にて連絡せしめた上、一五年一二月には天下茶屋・粉浜間、昭和六年一二月には粉浜・住吉公園の複々線を完成した。また当区の西部を南北に走る郊外電車として昭和二年一〇月芦原橋・三宝間に阪堺電鉄が誕生し、同線はその後徐々に延長して一〇年六月浜寺公園に達した。そしてこの間区内に乗合自動車の運行もあった。すなわちバスについては、当初大正一三年七月民営の青バスが生まれ、市バスは昭和二年二月二六日阿倍野・平野間に運行したのを最初として、以来主として周辺部に路線を拡張した。こうして当区内には三年一二月勝間街道を勘助橋から天下茶屋まで開設され、四年四月西浜町・住吉公園間一〇年八月大国町・住吉公園北口間という風に路線網を増加し区内に画期的な交通の足をもたらした。

市バスの運行

しかしこのうち国道一六号線を走る大国町・住吉公園北口間のバス運行については南海鉄道に併行するところから民営バスとのはげしい競争となり、当初大阪府知事が南海乗合にのみ免許すべき旨の副申をなしたため大いに世論の問題となった。当時当区民は勿論、新聞社も筆を揃えて「知事は副申を取消せ」「脅威される大阪市の自治」「無視された市民の公益」と連日書きたてて強く監督官庁の翻意をもとめ、遂に主務者は (1)大国町・住吉公園間の折返運転をなさざること、(2)運転回数は一日二八〇往復以内とすることの二条件を付して市に単独免許することとなった。

一六号線上のバス問題



昭和2年建設の区庁舎

かくて交通は日増しに便利となり区内は急速に発展したが、昭和九年九月二一日には第一次室戸台風の襲来があり、幾多貴重な人命とともに、永年にわたって育成された諸施設も一挙崩壊する悲惨事に遭遇した。

室戸台風の被害

区内の罹災状況

西成区	死亡	行方不明	重傷	軽傷	計
	一八	—	一六八	七二	二五八

罹災家屋

	流失	全壊	半壊	半流失	床上浸水	計	罹災船舶
	四	三五	一八二	—	二、八七一	三、〇九二	二六

備考1、本区は猛烈な風害をうけたほか、木津川と十三間川とに扼された津守町一円および十三間川に沿う東岸の一部低地はさらに浸水による被害をうけた。なかでも津守町方面は、大阪港より木津川一帯にわたる高潮襲来により各所に堤防の決潰を生じ、濁水氾濫し、たちまち泥海と化し、全町約三千戸は尽く浸水が床上に達し、しかも浸水は数日におよんだ（旭南通十三間川東岸潮高三・〇五メートル、地盤高一・五一メートル、水深一・五四メートル）

2、全壊校　津守第三、半壊校　今宮第一・津守第二・粉浜、大破校　今宮第一・同第三・同第四・同第五・同第六、玉出第一・同第二・同第三・津守第一　職員死亡一・重傷三　児童死亡九・重傷二四

3、阪堺電鉄は、二一日午前八時より二三日午後六時まで全線運転休止、二三日午後六時漸く車両二台にて芦原橋・鶴見橋間、二四日午後三時鶴見橋・天津橋間、一〇月六日天津橋通・松屋町間開通、全線復旧は一〇月一六日におよんだ。

二　日華事変発生後

国民精神総動員運動

昭和六年九月満州事変発生後、七三年月には大阪国防婦人会の結成、九年七月には大阪市を中心とする近畿防空演習、一一年九月には帝国在郷軍人会令の発布などあって漸次軍事色が高まりつつあったなか、一二年七月に日華事変の勃発があった。かくて政府によって国民精神総動員運動が起され、同年一〇月一二日国民精神総動員大阪市実行委員会が組織された。すなわちこれはまず小学校の通学区域による学校分会を基礎として、これを各区の支部に統合し、さらに各区を一丸として市本部にまとめる三段の組織をとった。本区では区支部実行委員会は区長を委員長とし、区内の市区名誉職・各団体の有力者・名士・学者・区吏員等約百名を委員に選定、各委員はすべて本運動の第一線に立ち各自の立場で関係団体と密接に連絡し、各戸への徹底を期した。そして一〇月一三日より全国一せいに行われた国民精神総動員強調週間ではその各日を時局生活の日、非常時経済の日、銃後の護りの日、神社に参拝殉国勇士を讃えるの日、勤労報国の日、非常時心身鍛錬の日とする市民運動として行われ、その頃からまた出征家族の慰問、御陵めぐり、ラジオ体操なども一般化した。ついで国民精神作興週間・燃料報国週間・白米食排撃胚芽米奨励週間、貯蓄強調週間などつぎつぎと行われ、一四年九月一日よりは興亜奉公日も設けられた。（一七年一月八日より大詔奉戴日と改められる）

町会・隣組の結成

ついで国民精神総動員の実践母体として町会・隣組が自治制発布五十周年記念の一三年四月一七日を期して、全市に二、六九九の単位町会が結成された。町会は大体において二百ないし四百世帯を基準とし、国民学校通学区域毎に校下町会連合会を組織し、さらに校下町会連合会は各行政区毎に区町会連合協議会をもち、隣保に隣組を結成した。こうした町会・隣組による活動は決戦段階・臨戦段階と戦争の進展に伴うて重要な役割を演じ、防空・物資の供出・貯蓄の増加・切符制登録制等による割当配給等に欠くべからざる行政補充機関ともなり、一五年五月よりは町籍簿も設けられた。このほか警防団（一四年防護団を解消して結成）、在郷軍人会、銃後奉公会（昭和一四年市銃後奉公会結成）、愛国婦人会（明治四一年一〇月創設）、国防婦人会（昭和七年一二月創設）、聯合青年団、聯合女子青年団、大政翼賛会（昭和一五年一〇月一二日発足）、大日本翼賛壮年団（昭和一七年一月一六日創設）等の団体があり、それぞれ時局に対応し銃後援護に努むるものがあった。いま昭和一六年当初のかかる団体について示すとつぎの通りである。

警防団その他

町　会

町会連合会	弘治（今宮第一）町会連合会	弘治国民学校内
	長橋（今宮第二）〃	長橋〃
	萩之茶屋（今宮第三）〃	萩之茶屋〃
	今宮（今宮第四）〃	今宮〃
	橘（今宮第五）〃	橘〃
	松宮（今宮第六）〃	松宮〃
	開南（今宮第七）〃	今二衛生組合事務所内
	梅南〃	梅通六丁目二　西本平太郎方
	玉出（玉出第一）〃	姫松通三丁目九
	岸里（玉出第二）〃	岸里国民学校内
	千本（玉出第三）〃	千本国民学校内
	津守（津守第一）〃	津守町五一二　村上一久方
	南津守（津守第二）〃	津守町一七一　津守衛生組合事務所内
	北津守（津守第三）〃	北津守国民学校内
	粉浜〃	粉浜本町三丁目一六　粉浜会館内
	東粉浜〃	東粉浜会館内
警防団	警防団	
	今宮第一～第七、梅南、玉出、岸里、千本、津守第一、南津守、津守第三、粉浜、東粉浜各警防団	
	帝国在郷軍人会	
帝国在郷軍人会	西成区聯合分会　区役所内	
	今宮、萩之茶屋、天下茶屋、玉出、粉浜、津守、津守工場、大原工場各分会	
銃後奉公会	銃後奉公会	
	西成区聯合会　区役所内	
	今宮第一～第七、梅南、玉出第一～第三、津守第一～第三、粉浜、東粉浜各単位銃後奉公会	
婦人会	愛国婦人会	
	西成区分会　区役所内	
	今一～今七、梅南、玉一～玉三、粉浜、東粉浜、津一～津三	
	大日本国防婦人会	
	西成区支部　区役所内	
	分会愛国婦人会と同じ	
翼賛会	大政翼賛会大阪市西成区支部　区役所内	
	その他	

さて本期では新時代の快速交通機関である地下鉄が、昭和一三年四月難波から天王寺まで開通し、大国町・動物園前などの停留所が設けられ、本区北部の人たちにとって市の中心部への連絡が便利となったが、一七年五月一〇日にはいよいよ区民期待の三号線の一部として大国町・花園町間が開通した。しかしこの工事は大国町停留所と関西本線南側間は一号線と同時に施工され、関西本線南側より花園町停留所以南までは一三年五月より着工されたものであった。ところが日華事変の進展に伴って

花園町への地下鉄開通

重要資材の統制が強化され、ためにすべての線路部は従来の函型鉄筋コンクリート構造を断念し、無鉄筋拱型構造を採用するなど非常な苦労の中に完成したものであった。このほか市バスも一三年一〇月青バスを買収し路線網を拡張したが、肝心のガソリンがなくなり漸次休止路線が増加した。

教育関係では一三年一月徳風勤労学校の甲岸町への新築移転、同四月の梅南校の新設などあったが、他方一〇年発足した青年学校も一四年から義務制となり、一六年には小学校も国民学校と改められ児童の錬成に力がそそがれた。

国民学校への改編

国民学校（昭和一五年末）

	職員数	児童数		職員数	児童数
弘治	三三	一、六九五	玉出	三七	一、九〇五
長橋	三九	一、八七〇	岸里	三九	二、〇〇五
萩之茶屋	三六	一、七三二	千本	五四	二、六〇七
今宮	四〇	一、八六〇	津守	二五	一、〇三〇
橘	五九	三、一七八	南津守	一一	四三九
松之宮	三八	一、八七六	北津守	二四	一、〇五三
開	三三	一、六五二	粉浜	四六	二、三四四
梅南	二四	一、二一一	東粉浜	二四	一、〇三四
徳風	二三	三六六			

幼稚園

	保母数	児童数		保母数	児童数
市立玉出	四	一六五	私立旭	三	四〇
同粉浜	五	一七九	同信愛	三	五五
私立大阪今五	五	二一〇	同昭和	三	四五
同今六	二	八一	同開花	三	九〇
同不二	二	四三			

青年学校

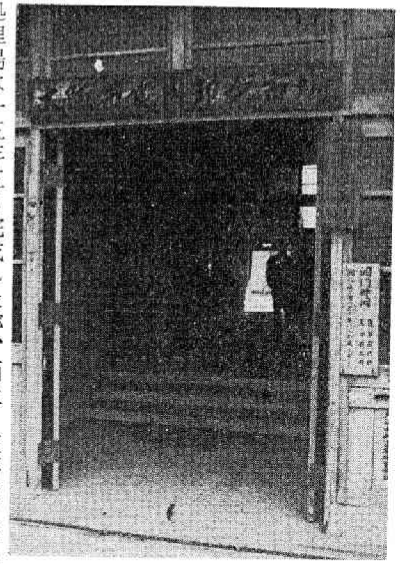
市立弘治青年学校	花園町		市立岸里青年学校	新開通一丁目	
同長橋〃	鶴見橋北通四丁目		同千本〃	千本通六丁目	
同萩之茶屋〃	甲岸町三		同津守〃	津守町	
同今宮〃	三日路町		同南津守〃	〃	
同橘〃	桜通五丁目		同北津守〃	〃	
同松宮〃	旭北通七丁目		同粉浜〃	粉浜中之町	
同開〃	中開四丁目		同東粉浜〃	粉浜東之町三丁目	
同梅南〃	梅南通六丁目		その他私立青年学校	一五	
同玉出〃	姫松通二丁目				

屠場

このほか本期において注目されるものは、一四年二月の市立屠場、一五年五月の津守下水処理場、同七月の今宮産院の新築落成などであるが、市立屠場は従来の市立木津川・今宮両屠場（ともに明治

家畜市場

四三年の開設）の建物設備が腐朽し改築の必要にせまられていたため、一一年七月着工し一四年二月に東洋第一の最新式屠場として開業したものであった。またこの際家畜市場をこれに並置新築したが、これは屠畜事業経営の合理化をはかるためで、当時著るしく増加しきていた肉類の需要に応ずる必要があったからである。つぎに津守下水処理場は一五年五月完成したが、雨水・家事および湯屋等の一般汚水はもちろん、工場廃水および屎尿を含めた廃水を、最も進歩した促進汚泥法によって無害にまで浄化処理する、画期的な近代下水処理場として出現したものであった。



市立屠場

津守下水処理場

三　第二次西成区の成立と終戦まで

第二次西成区の成立

一八年四月本市は従来の一五区制から二二区制を採用するに至って現在の西成区が成立するに至ったことは前にも述べた通りである。当時分増区を必要とする理由としてはまず人口の増加に対する地域的不均衡があげられ、大正一四年一〇月一日の国勢調査人口と昭和一五年一〇月一日のそれとを比較すると、中央区はむしろ却って減少し、周辺区は著るしく激増し、一区として過大と認められるものがあった。

区境界の変更

区名	昭和一六・一面積（平方キロ）	大正一四年人口	昭和一五年人口	人口増加率（大正一四年を一〇〇とする）	人口密度 大正一四年	人口密度 昭和一五年
南	二・七三	一二一、四〇三	一〇四、六三八	八六	四四、四七〇	三八、二三八
浪速	三・七九	一四九、八九〇	一三九、八〇六	九三	三九、五四九	三六、八八八
西成	七・〇八	一三七、六三二	二一五、八二八	一五七	一九、四四〇	三〇、四八四
住吉	三九・九四	一四〇、九〇七	三七六、六四三	二六七	三、五二八	九、四三〇

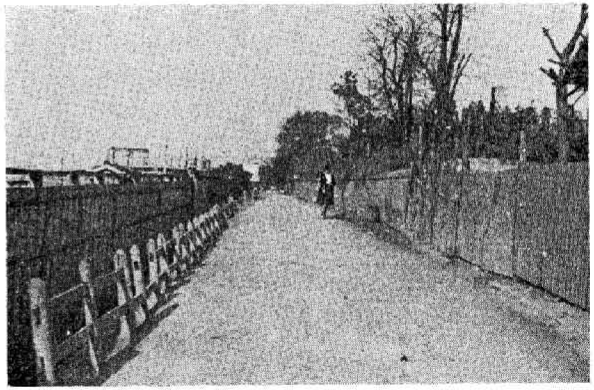
右のように中央区はむしろ大正一四年までに発展の山をすぎており、住吉区の如きは極めて過大の人口を擁しこれらを分割再編する要があった。また従来の区の境界を是正し、時局に伴う統制経済・防空・物資配給・軍事援護・貯蓄・生活指導・健民指導等の上から行政区画を適にすることは是非とも必要であった。そしてこの際区の境界決定については河川・運河・鉄道または軌道・地勢の高低・都市計画道路等の明確なものによることになり、北部の浪速区とは関西本線、東部の阿倍野区とは上町丘陵、南部は都市計画道路平野柴谷線など明確な区界とするよう努めた。このため本区の区域に相当の変革が加えられ住吉区の一部（山王町一～四丁目、天下茶屋一～三丁目、松田町一・二丁目、聖天下一・二丁目、天神ノ森一・二丁目、桜井町の一部および北加賀屋の一部）が本区に編入せられ、本区からは都市計画道路平野柴谷線以南の辰巳通一・二丁目の一部、粉浜東之町一丁目・粉浜中之町一丁目・粉浜西

之町一丁目の各一部を残した残部および津守町の一部が住吉区へ編入せられることとなった。

この第二次西成区誕生に先立ち一八年一月には従来の今宮警察署が西成警察署と署名を改め、五月には西成保健所も創設されたが、間もなく九月には官庁その他の建物疎開も発表され、国民生活はいよいよきびしい耐乏を強いられていた。すなわち米は一五年一二月から町会を通じて配給をみたが、一七年一月から調味品・味噌・醤油・砂糖・油つづいて魚類も配給となり、衣料切符も発行され、当時区役所では丁会を通じて各世帯に家庭用購入通帳を交付すると共に町会は行政の補完的な役割を果たして物資の配給を行っていた。このほか区役所ではミルク・マッチ・ガーゼ・脱脂綿さては赤ちゃんのお菓子類に至るまで、すべて割当制により切符を発行、冠婚には酒一升、葬祭用としては酒二升、ローソク百匁一箱の特配が認められ、乳幼児・妊産婦・病人には配給物資の特配があるという有様であった。当時煙草も登録制が実施され、鍋釜はもちろん野菜に至るまで、生活物資は殆んど統制の枠内にあって自由販売というものは

西成警察署

耐乏の戦時生活



松田町１丁目付近（右側阿倍野墓地）

殆んど影をみせぬ状態で、些少の空地も休閑地として自給菜園が奨励された。

こうしたすべてが窮屈のなかで、バスもガソリン不足で休止路線が増え、交通機関の統制についても軍部方面の要請が強くなり、一五年一二月南海・阪和の両鉄道は合併して阪和線は南海山手線となったが、軍需生産品輸送の確保上から一九年五月国鉄に買収され、同じく六月には関西急行電鉄と南海鉄道が合併し、南海諸線は二三年六月に至るまで近畿日本鉄道を称した。また本区西部を走る阪堺電鉄（芦原橋～浜寺公園間一三・九キロ、資本金六〇〇万円）はもともと沿線の人口密度が低く営業成績も不振であったが、戦局の進展するに伴い沿線に重要軍需工場、特に造船工場が拡張され通勤工員がとみに増加した。しかし輸送機関はこれに伴わず朝夕非常な混雑を示し、工員の生産能率におよぼす影響大であったため、大阪市は一まず車両五両を貸与した。ところがこれでは根本解決を図られ得ず遂に一九年四月六三三万円で大阪市に買収され、市はその路線の一部湊ノ浜～浜寺間二・七キロの一部路線を休止、二二両を配車し従来の輸送力を五割程度向上せしめた。

かくするうち戦局はいよい悪化し、一九年八月には学童の集団疎開も開始され、二〇年に入るとともに敵機の空襲がはじまり、三月一三日にはいわゆる大阪大空襲によって花園公設市場、西成警察署などが焼失、四月には区役所も弘治小学校へ疎開し、さらに六月一五日には西成郵便局・橘・西天下茶屋両公設市場も被災焼失する有様で、区人口も著るしく激減した。

阪堺電鉄の市買収

人口の減少

	空襲前人口	減少人口	二〇年一〇月人口	空襲前に対する比率%	減少理由 罹災	減少理由 疎開
西成区	一八五、〇八一	一〇五、七六四	七九、三一七	四三	三八、〇四一	六七、七二三
大阪市	二、七三五、九五四	一、六八六、〇一七	一、〇四九、九三七	三八	九六三、三九八	七二二、六一九

四　終　戦　後

戦災後の区内

二〇年八月一五日終戦詔書の歴史的放送とともに戦争は終結したが、あたりをみれば満目荒涼とした一面の焦土であり、すでに戦争中から窮迫化していた衣食住は一層窮乏化した。それに破壊された交通機関は容易に回復せず、水道はたえず断水をつづけ、ガスは螢のように燃え、電灯は停電つづきの有様で、文字通り「お先真闇」であった。そして巷には青空市場ともいわれた闇市が出現し、善良の市民はなけなしの着物を身を切る思いで高い闇値の食料に代え、全く筍生活がはじまり、悪徳の一部商人によって物価は天井しらずに吊上げられ、市民生活はますます窮乏化した。

闇市の出現

このような情勢から終戦後の二、三年はインフレ・買溜め、買出し・栄養失調・兇悪犯罪・遅配欠配・輸入食糧の放出・浮浪者・戦災孤児・発疹チフスその他衣料・住宅の問題など日々市民生活難をうったえる暗い記事が連日新聞紙上を賑わした。かかるなか戦後の復興はまことに容易ならぬものがあった。まず官公庁の関係では、警察署は三月一三日の戦災による庁舎焼失後一時萩之茶屋小学校、つ

仮住いの諸官庁

いで二一年五月戦時中捕虜収容所として使用した建物を転用使用し（二三年三月現庁舎改築）、税務署も戦災のため南海通二丁目玉出小学校宮之下分校を利用、二三年四月漸く庁舎を新築し移転した（四二年二月一五日現庁舎落成）。また西成郵便局も二〇年六月一五日の戦災焼失後橘小学校を仮局舎とし、同年九月もと天下茶屋郵便局跡に移ったが、千本通二丁目の新局舎落成は三六年一二月であった。公設市場は二一年三月花園・橘・西天下茶屋の三市場ともその公用が廃止され、その再開には相当の年月があった。

校舎の荒廃

ことに学校は各校の半数と各校下が多大の災害をうけ、開国民学校は閉鎖され、幼稚園でも玉出幼稚園を除く全部が閉鎖された、しかし幸い戦災を免れた学校も窓ガラスが破損し、永年無修理のため到るところ雨漏りに悩むという有様であった。かかるなか二一年三月米国教育使節団の来日があり、その勧告によって二二年三月教育基本法および学校教育法が発布され、いわゆる六・三・三制の新教育が実施されることとなった。

新制中学の誕生

かくて新制中学として第一（天下茶屋）、第二（今宮）、第三（成南）が二二年四月、さらに翌年第四（鶴見橋）の四中学が生まれたが、一中が高等科のみを収容した旧浜田国民学校々舎を利用したほか独立校舎はなく小学校を使用する有様で備品の如きも十分でなく、市区教育委員会事務局をはじめ二三年六月小中学校等に発足したP・T・Aの文字通り涙ぐましい努力によって教育設備の充実をみることとなった。（二四年一〇月西成区P・T・A連絡協議会結成）

陛下の行幸

かく本区教育関係者が荒廃した施設で苦労している時に二二年六月七日天皇陛下が本区の府立今宮

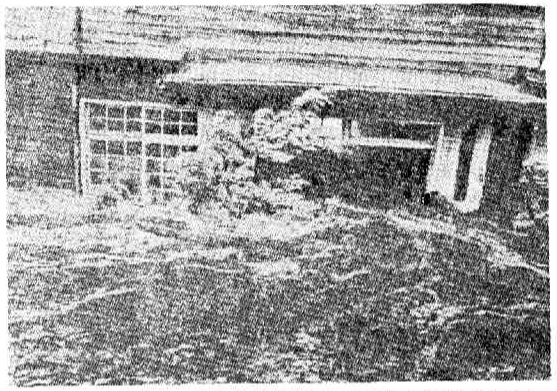
各種団体の結成
民生委員
婦人会
選挙管理委員会
災害救助隊
日赤奉仕団
ジェーン台風の襲来

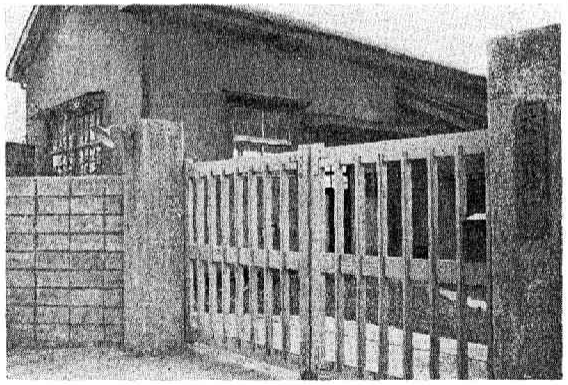
生徒の実習を熱心にご覧の陛下

工業学校（二三年四月府立今宮工業高校となる）への行幸を得たことは、まさに本校のみならず復興にいそしむ当区民の非常の激励となるものであった。戦後の一、二年はまさに敗戦による混乱と虚脱の状態がつづき、その復興はただに教育関係にとどまらずあらゆる面で容易でなく、各方面で復興の母体となる各種団体の結成が行われた。すなわち二一年一〇月には旧方面委員制度に代わり、新たに民生委員制度が生まれ、また旧大日本婦人会が解散となって新たに西成区婦人会の結成をみた。さらに二一年一一月西成区選挙管理委員会が設けられ、二二年四月にははじめて知事・市長の公選が行われた。そして二三年二月西成区災害救助隊、同七月西成区日赤奉仕団が結成され、二五年九月三日襲来のジェーン台風時には区内の高潮被害も多大であったが、この両団の救助活動はまことに特記すべきものがあった。

人的被害		物的被害	
罹災人員	三五、八一八人	全壊家屋	一三四戸
罹災世帯	一〇、六七五世帯	半壊家屋	五、五七二戸
死亡行方不明	四人	床上浸水	四二六戸
負傷者	一〇〇人	床下浸水	九九四戸

防潮堤の完成
社会福祉協議会
保護司会
P・T・A協議会
体育厚生協会
区民クラブ


ジェーン台風による高潮の襲来（津守小学校正門前）


天津橋抽水所

備考　その後この台風禍を機に二五年一一月木津川並十三間堀川防潮堤完成促進同盟が結成され、防潮堤ならびに天津橋ポンプ場など築造され、三〇年七月この完成を祝し、記念碑が津守小学校前に建てられた。

そして二五年二月には市内でいち早く社会福祉協議会の結成があり、また同年五月西成地区保護司会が誕生した。このほかPTA協議会（二四年一〇月）、体育厚生協会（二五年四月）、西成区民ク

未亡人会
防犯協会

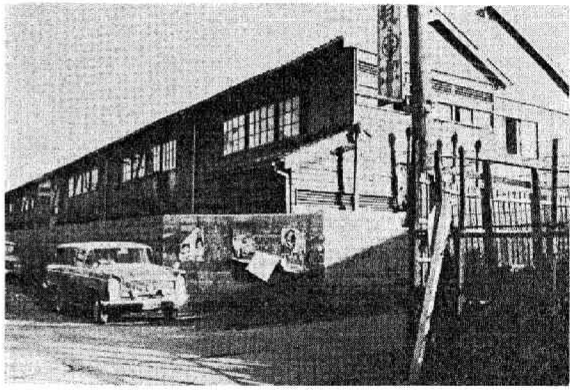
ラブ（二五年一二月）、未亡人会（二六年五月）、身体障害者福祉協議会（二六年七月）、防犯協会（二七年八月）、傷痍軍人会（二七年一〇月）など相ついで本区諸団体の結成をみた。

戦後の施設

他面戦後の施設として二一年六月今宮産院が今宮市民病院となり、二二年二月東田町に今宮市民館、一二月西天下茶屋公設市場、二三年六月市立西成寮、二五年五月区役所内に西南部民生安定所など社会施設もぞくぞく設置をみたが、各官公署もつぎつぎ近代建物として新築落成をみた。

官公庁の新改築

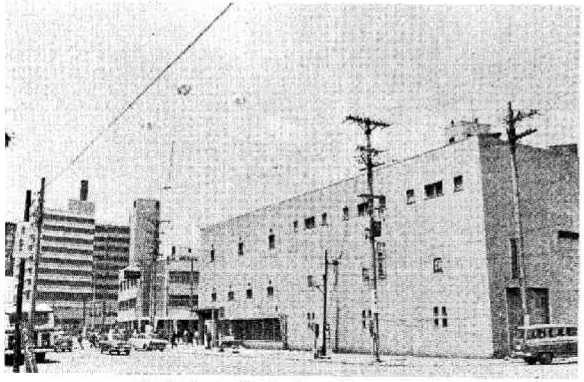
すなわち二一年五月西成警察署が海道町に（現庁舎は三三年三月完成）仮庁舎を新築したのをはじめ、二三年四月西成税務署が千本通二丁目に（現庁舎は四二年五月完成）、二四年四月水道局粉浜営業所、二六年一月西成府税事務所が西皿池町に（現庁舎は四〇年三月完成）、二八年四月西成消防署が東皿池町に、ついで二九年一一月西皿池町に市内の近代的区庁舎のさきがけとして西成区役所新庁舎が竣工し、国道二六号線に沿う皿池町方面が本区の官公庁センターとして一新した。



市立西成寮

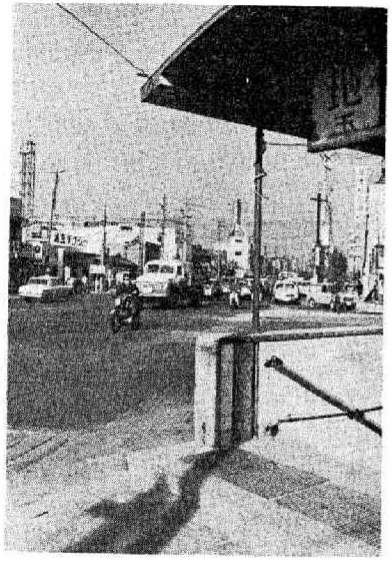
南海バスの乗入れ

この間二二年一二月自治体警察、二三年三月自治体消防の成立があり、他方戦災土地区画整理事業、農地改革の実施、津守方面の工業化の進捗があり世上極めて多事であったが、交通の上でかつての市バス休止路線も相ついで復活し、新設路線を加えていよいよ重要な区民の足となった。また二三年二月よりは郊外都市から本市へ入る乗客の輸送緩和の一つとして南海バスの乗入れがあったが、本区への重要な交通機関として影響を与えたものは、三一年六月の花園町・岸里間、三三年五月の岸里・玉来間の地下鉄延長であった。快速で当区の南端から本市中心部へ結ばれたこの地下鉄敷



官公庁の集中する岸里付近

地下鉄三号線の延長



地下鉄玉出駅付近

設によって本市の交通事情は一新し、その後の本区発展に与えた影響はまことに予期以上のものがあった。

五　西成事件の発生

公娼制度の廃止

戦後当区内において種々事件や福祉施策を要する問題の発生をみているが、その主なものとしては、公娼制度廃止による飛田およびその周辺の変貌と度重なる釜ケ崎事件の発生であった。まず前者については二一年一月の占領軍よりの「日本における公娼廃止に関する件」の覚書にもとづき、翌二二年一月「婦人に売淫させたもの等の処罰に関する勅令（昭和二二年勅令第九号）が公布され公娼制度に漸く終止符を打たれたが、反面私娼が増加し、特殊飲食店（赤線・青線等）として集娼制による営業が黙認されたため闇の女は容易にそのあとを絶たず戦後の性道徳の乱れは、警察関係の取締だけでなかなかおさまらなかった。三一年四月三〇日現在民生局調によると市内の売春業者および婦女分布状況はつぎの通りであった。

地区	業種別	業者数	売春婦数
イ　赤線地区　飛田	待合	一九七	一、三五〇
松島	待合	一五七	八二〇
計		三五七	二、一七〇
ロ　青線地区　飛田周辺	旅館	一一三	一八〇
大阪駅周辺	小料理飲食店	一八	四〇
大淀区（天六・青山町）	娼家	一五	二〇
ハ　売春容疑者ならびに婦女			
西成	旅館・下宿屋・娼家	七三	一四〇
都島	旅館	七	二〇
南	旅館・娼家	九	六〇
港	旅館・小料理店	三	七
住吉	小料理店	一一	二〇
天王寺	旅館・カフェー	一二	六〇
阿倍野	旅館・娼家	四	一五
旭	小料理店	一	五
生野	娼家	五	一二
曽根崎	娼家	一七	七五
浪速	旅館・飲食店	一二	五五
計		一五五	四六九

売防法の制定

右のような状況下、三一年五月売春を「人間の尊厳と性道徳および善良の風俗に反するもの」として禁止した売春防止法の制定があり、三二年四月より施行された。（刑事処分に関する規定は業者および

飛田の消灯

従業婦の転廃業を円滑にするため一年おくれて三三年四月施行）しかし本市は他都市にさきがけ廃止後の業者の転廃業のための準備措置として三二年二月二八日業者が一斉に消灯し自粛協力を行い、他面市では三二年三月から婦人相談員を任命し、天王寺（天王寺公園内）、西成（西成区役所内）、青鳥寮（売春防止法による要保護女子を無料で宿泊せしめ更生を図る施設）ほか三カ所に簡易婦人相談所を設置して保護更正に当った。しかしその後売春の型態は法の目をくぐって潜在化、悪質化し、かつての赤線青線区域も完全に浄化されたとは云えぬ状態が継続している。

西成事件の発生

つぎに釜ケ崎事件（西成集団暴力事件、あいりん事件など種々呼称された）は今日までに、昭和三六年八月、四一年五月、四二年六月の三回にわたって騒ぎが起っている。この第一回の事件の大要は、三六年八月一日午後九時一五分頃、東田町派出所前でドヤ街の住人柳田豊造（六二）がタクシーにはねられ、その交通事故の処理問題に端を発した。その際救急車の出動が遅れたとして「警察は何をしとる」「怪我人を早く病院に運べ」など一部日傭労務者や住民が怒声をあげはじめ、折柄夕涼みやホロ酔きげんの若い衆が集まり来り、一〇時三〇分頃には約七〇〇～八〇〇名になり次第に険悪化し、派出所に投石放火し半焼半壊させるに至った。そして群衆はさらに西成署を襲い無線自動車ならびに警察本部鑑識車を放火炎上させるに至り、完全に暴徒化した。この集団暴力事件は一日をもっておさまらず八月三日まで毎夜四〇〇～五〇〇〇名をかぞえ、行動範囲も著しく拡大され内容も兇暴化し警戒中の警備部隊に投石するほか阪堺線および関西線に坐り込み電車に対する投石等により列車の運行を妨害し、自動車を炎上さすほか、他方ヤクザが自警と称して町をねり歩き険悪な情勢がつづいた。

事件の鎮圧

かくて遂に警察は局地的早期鎮圧を図るため、三日府警最大の警備態勢をもって五二箇中隊（六〇〇〇余名）を投入して徹底的に悪質不法行為者の検挙を強行し、暴徒化した群衆を分断分散した結果事件は大きく好転し以後局部的に小事件はあったが、六日目には完全に平静となった。しかしその後一カ月間はなお警備体制が強化され、投入警察官の数は、延一〇五、二六六名におよび、第一日目からの警察の経費は七千万円、逮捕者一一一人におよび、戦後の暴動としてはまさに安保闘争に際しての国会デモ以来のことといわれた。

ところがこれに先だち奇しくも一年前同じ頃に東京都台東区内の通称〝山谷〟において同様な事件の発生をみていたが、まさか大阪にも起るとは考えず、それまでの公共機関の福祉施設はまことに不十分であった。かくてこの事件の発生は府市をはじめ世人にも強い警鐘となり、以後相ついで諸種の福祉対策が実現化した。すなわち三六年九月に大阪府労働部西成分室、大阪府警防犯コーナー、一〇月西成保健所分室、三七年二月愛隣学園、八月各分野にわたる総合社会福祉機関として愛隣会館、一二月市立愛隣寮、三八年二月財団法人労働福祉センターなどの各施設の開設をはじめ、環境整備に、国・府・市をはじめ財界・学者・特志家の非常な協力があった。

各種施設の設置

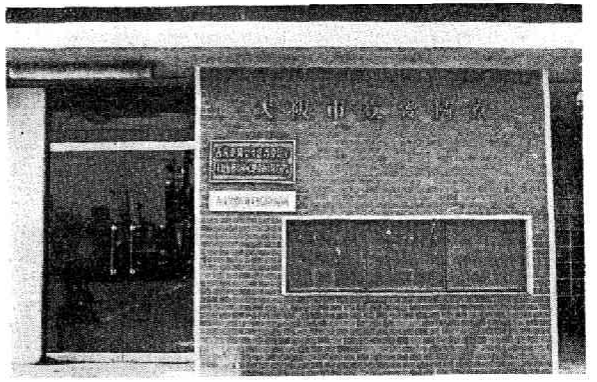
かくて、一応以前のような暴動事件の発生は起らぬものと一般に考えられていたが、四一年五月二八日および翌四二年六月二日の二度にわたりまたまた騒動が起きた。すなわち前者ははじめ五月二八日

事件の再発

午後九時三〇分頃東入舟町三六番地ニコニコ碁会所から出火、同碁会所二階など五〇平方メートルを焼き間もなく鎮火したが、この火事場に集った群衆が一部の者の煽動で暴徒化し、約三、〇〇〇人が東田町一番地の大一パチンコ店へ投石、同店前の西成警察警ら分駐所へ放火し、翌二九日夜も市バス・商店街への投石を繰返えした。さらに三〇日夜は、見物人を含め約四、〇〇〇人の群衆が騒ぎ南海阪堺線電車に投石し出動の警官隊にも投石を繰返えした。騒ぎは大体三日で終っているが、その発生の原因については物価上昇による生活苦と一般社会に対する劣等感などが指摘された。

三度目の事件

ついで後者の事件は四二年六月二日午後九時すぎ東入船町四番地丸福食堂において、飲食代金の支払をめぐって労務者と同食堂店員とが口論したことから付近の労務者がい集しはじめ、最盛時には約二、〇〇〇名となって同食堂を中心に投石等を連日繰返し、発生以来四日目で漸く平静に期した。かく度重なる不祥事件の勃発で未だその対策が十分でないことが指摘されるが、われわれ区民は限りない愛情をもって



市立愛隣寮

地区改善に協力し、努力しなければならない宿命のものである。

六 区 勢 の 発 展

戦後の人口趨勢

戦後二〇余年の発展の跡を、まず人口の上で見ると、

昭和二二年	一二二、六三二	
二三年	一三一、八六〇	常住人口調査
二五年	一五一、五〇九	国勢調査
三〇年	一八八、六五二	同
三五年	二一四、六五二	同
四〇年	二一二、八一九	同

全市第一の人口密度

となり、ほぼ戦前の最盛期昭和一五年の国勢調査人口（現在の区域に修正）二二二、四六七と大差がなくなった。しかし人口密度の上では一平方キロ当り四〇年人口は二八、六八二と全市中最高を示し、すでに人口の上では発展の限度まで到達するに至っている。他面町づくりの上において復興都市計画事業、戦災土地区画整理事業の進捗によって、見違えるように広路が出現し、地下鉄（四〇年一〇月三号線開通して玉出～西梅田間直通運転実施）等交通利便の増進などによって、商工業は一段と隆盛さを加え、ますます住みやすい西成区の声名を得て今日に至っている。

区勢の現況

地区別人口

地区別人口

地区名	世帯数	人口 男	人口 女	人口 計	有権者数 男	有権者数 女	有権者数 計
弘治	三、七〇七	五、八二八	六、三〇四	一二、一三二	四、二二三	四、六〇八	八、八二一
長橋	四、一九五	八、三二八	七、八三〇	一六、一六八	四、八七六	四、七一四	九、五九〇
萩之茶屋	四、八二〇	九、〇一三	七、〇八七	一六、一一〇	六、六三九	五、三〇四	一一、八四三
今宮	六、三二一	九、五一四	九、二九六	一八、八一〇	七、二三四	七、一二七	一四、三五五
橘	五、六八四	九、八五〇	九、九七一	一九、八二一	六、五九七	七、〇四〇	一三、六三七
松宮	三、〇一六	六、〇一五	五、九八七	一一、九八二	三、七〇四	三、八一五	七、五一九
梅南	二、六二一	五、〇一七	四、七〇四	九、七二一	三、三五三	三、三六九	六、六二二
玉出	四、五六五	六、三九四	七、三一九	一三、七一七	五、〇四八	五、七四五	一〇、七九三
岸里	七、一三三	九、五一四	一〇、八一四	二〇、三三八	七、四〇八	八、六七三	一六、〇八一
千本	五、五四四	九、五三三	九、五一〇	一九、〇五三	六、六六七	六、八五八	一三、五二五
津守	一、四七〇	三、一一八	二、八〇一	五、九一九	一、九六八	一、七六八	三、七三六
南津守	二、八一五	五、六四〇	四、八八四	一〇、五二四	三、一九六	三、〇一三	七、〇一三
北津守	一、六一〇	三、四〇一	二、八九三	六、二九四	二、二七四	一、九二三	四、一九七
山王	三、四五一	五、〇〇一	五、四二八	一〇、四三九	四、四六四	五、〇〇四	九、四六八
飛田	六二一	八〇三	一、一五四	一、九五七			
天下茶屋	六、六一六	九、六二〇	一〇、三九四	二〇、〇一四	七、〇一〇	七、八七四	一四、八八四

水面

	一四	一七	一四	三	—	—	—
計	六四、一四五	一〇六、四三九	一〇六、三八〇	二二、八一九	七五、三八四	七六、八〇八	一五二、〇九二

備考　世帯数と人口は昭和四〇年国勢調査による　有権者数は昭和四二年九月三〇日現在の概数

事業所数

事業所数	合計	事業所数	合計
建設業	二八四	不動産業	七二八
製造業	一、八五一	運輸、通信業	一二七
卸・小売業	五、九四九	電気・ガス水道業	八
金融保険業	一三六	サービス業	二、〇〇一
農家数（昭和四一・二・一現在）	二〇	兼業農家	二八
専業農家			
工業数（昭和四〇・一二・三一現在）			
食料品製造業	九三	皮革同製品製造業	九五
繊維工業	八	窯業・土石製品製造業	一六
衣服繊維製品製造業	四二	鉄鋼業	四〇
木材・木製品製造業	八八	非鉄金属製品製造業	二六
家具装備品製造業	一一二	金属製品製造業	二〇四
パルプ・紙製品製造業	五六	機械製造業	一五二

出版印刷関連業	三三	電気機械器具製造業	二六
化学工業	四七	輸送用機械器具製造業	三四
石油・石炭製品製造業	—	計量器・精密機械製造業	七
ゴム製品製造業	一一	その他の製造業	五二
		合計	一、一四二

商店数（昭和四一・七・一現在）

卸売業	六七三	飲食店	一、六三二
小売業	三、五四二	合計	五、八四七

学校数（昭和四二・五・一現在）

幼稚園	市立　三（　七五八）	私立　五（九四三）	
小学校	市立　一五（一四、一五三）	私立　一（一八七）	
中学校	市立　六（六、九〇一）		
高等学校	府立　一　全日制（一、三六〇）　定時制（一、一七三）		

備考　（　）内は生徒数を示す

最後に第一次西成区成立以来の府、市会議員を示すとつぎの通りである。

府会議員・市会議員

府会議員

当選	退職	住所	氏名
大正八年九月	大正一四年九月	西成郡今宮村	嶌善四郎
※大正八年九月	昭和二年九月	東淀川区宮原町六九五	小岸安昌
大正一四年一一月	昭和二年九月	西成区三日路町	柴田藤吉
昭和二年九月	昭和一二年一二月	西成区東入船町	高木伊佐吉
昭和二年九月	昭和一一年一二月	西成区千本通四丁目	土井松三
昭和二二年四月	昭和三〇年七月		
昭和二年九月	昭和六年九月	西成区粉浜町	寒川洋治
昭和一〇年九月	昭和二〇年六月		
昭和六年九月	昭和一〇年九月	西成区鶴見橋通一ノ一四	吉村周次郎
昭和一二年二月	昭和三四年四月	西成区梅通六ノ一一	居川喜太郎
昭和一三年三月	昭和二二年四月		
昭和二六年四月	昭和四二年四月	西成区田端通五ノ六	実野作雄
昭和一四年九月	昭和二二年二月	西成区東萩町四	東
昭和三〇年四月	昭和三四年四月	西成区津守町東二ノ二〇	中田清繁
昭和三四年四月	現在	西成区天神森一ノ二	三谷久男
昭和三四年四月	昭和三八年四月	西成区松通五ノ一	末松泉
昭和三八年四月	昭和四二年四月	西成区鶴見橋通七ノ一一	市本賀一

昭和三八年 四月	昭和四二年 四月	西成区南吉田町六一	沖本泰幸
昭和四二年 四月	現在	西成区北神合町六	小谷輝二
昭和四二年 四月	現在	西成区梅南通四ノ一三	末松泉

※小岸安昌は、大正一四年四月一日第二次市域拡張によって西成区の選挙に配当された。大正一四年七月六日大阪府告示第二六〇号

市会議員

市会議員

当選	退職	住所	氏名
大正一四年 六月	昭和 四年 五月	西成区東入船町五九四ノ一	岩間繁吉
大正一四年 六月	昭和 四年 五月	西成区玉出町五一一（玉出本通一ノ三）	中村寅吉
大正一四年 六月	昭和 四年 五月	西成区松通五丁目七七三ノ二	八代徳太郎
大正一四年 六月	昭和 四年 五月	西成区津守町六一八	吉川吉郎兵衛
昭和 四年 六月	昭和一二年 五月	西成区東萩町四	東東
昭和 四年 六月	昭和 六年 九月	西成区姫松通二ノ一四	安城環
昭和 四年 六月	昭和 八年 五月	東淀川区今里町一九八	坂本孝三郎
昭和 四年 六月	昭和一二年 五月	西成区東入船町一五	高木伊佐吉
昭和一七年 五月	昭和二二年 四月		
昭和 四年 六月	昭和一三年 一月	西成区松通六ノ七	松岡金太郎
昭和 四年 六月	昭和一八年 六月	西成区旭北通二ノ二（梅南五ノ七）	山口常次郎
昭和 八年 六月	昭和一七年 五月	西成区南開四ノ六	斎藤順次郎
昭和 八年 六月	昭和二〇年 六月	西成区粉浜西之町三ノ三	寒川洋治
昭和一二年 六月	昭和一七年 五月		
昭和二二年 五月	昭和二六年 四月	西成区旭南通六ノ八	田中正男
昭和二九年 七月	現在		
昭和一二年 六月	昭和三三年一二月	西成区田端通四ノ四（千本通七ノ七）	辻竹松
昭和一二年 六月	昭和二六年 四月		
昭和二八年 九月	昭和四二年 四月	西成区津守町東五ノ一四	吉宗貞之
昭和一三年 一月	昭和一七年 五月	西成区北神合町二六（松通四ノ四）	浜崎要範
昭和一七年 五月	昭和一九年 六月		
昭和二〇年 九月	昭和二一年一一月	西成区旭北通八ノ七	浅野庄吉
昭和一七年 五月	昭和二二年 四月	西成区田端通二ノ一九（玉出本通一ノ四〇）	藤本舜吉
昭和二二年 五月	昭和四〇年一二月	西成区北神合町二一	土井晴美
昭和二二年 五月	昭和二八年 七月	西成区柳通一ノ一一	樋上栄次郎
昭和二二年 五月	現在	西成区山王町二ノ四八	柳本松太郎
昭和二六年 四月	昭和二九年 六月	西成区山王町四ノ三二	栄森一夫
昭和二四年 四月	昭和三八年 四月	西成区南吉田町六一	沖本泰幸
昭和三四年 四月	現在	西成区千本通七ノ七	辻昭二郎

昭和三八年　四月	昭和四二年　四月	西成区天下茶屋三ノ一二三	近江己記夫
昭和四二年　四月	現在	西成区梅南通八ノ八	内村作二
昭和四二年　四月	現在	西成区花園町三三	中尾安夫
昭和四二年　四月	現在	西成区今池町五五ノ三	柳井伝八

第二編　各説

第一章　土木事業

一　道路

紀州街道

当区において、古来の街道として有名なものに紀州街道（住吉街道ともいう）があるが、この街道が重要性をおびてきたのは戦国時代石山合戦の頃からで、それまではほぼ上町丘陵の屋稜線を走る阿部野街道によって住吉詣、熊野詣などが行なわれた。足利時代末期街道沿いは未だ海岸線に近く、白砂青松の風景をめでながら人々が往来したことと思われる。摂津名所図会大成巻之七につぎの記事がある。

○天下茶屋　住吉街道にあり、もと此里は勝間村の出在家なれども世に天下茶屋村といひならわせり

伝云往昔豊臣秀吉公堺政所に御往来の時此地の茶店に於て御休息ありて御茶を召上られ風景を賞し給ふよりして終に地名を天下茶屋と言ならわせしとぞ。又此街道も豊公の御時にひらき給ふよ